

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	環境教育事業	担当課	市民生活課
事業内容(簡潔に)	環境問題に対する意識と理解を深め、環境保全の推進を図る事業		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	美しいふるさとを誇れるまちづくり	
	政策	ふるさとの魅力と誇りを次世代につなげるまちづくり	
	施策	自然環境の保全/資源循環型社会の構築	
関連する個別計画等	環境基本計画（第2次）	根拠条例等	環境基本条例

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	子どもを対象に、環境学習会・キッズ ISO 等を行い、環境問題に対する意識と理解を深め、環境保全・美化の推進を図る。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> 市内の保育園・幼稚園・こども園・児童センター・小学校の園児・児童に対して環境学習会を開催。（平成 25 年度から保育園で実施開始。平成 28 年度からは幼稚園・こども園も対象として広げる。平成 30 年度からは小学校も対象として広げる。） 小学校低学年の親子を対象に親子環境学習会を開催。（平成 26 年度から） 小学校 5 学年生を対象に「キッズ ISO 入門編」を教材として使い、環境意識の向上を図る。 市内保育園・幼稚園・こども園・児童センター・小中学校に「緑のカーテン」を設置。（平成 25 年度から）
事業の対象	市内の保育園・幼稚園・こども園・児童センター・小学校・中学校の園児・児童・生徒及びその親

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30 年度	元年度	2 年度
財 源 内 訳	A 事業費 (千円)	805	668	323
	国・県支出金	402	334	161
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	403	334	162
B 担当職員数(職員 E) (人)	0.30	0.30	0.30	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	1,973	2,015	2,059	
D 総事業費(A+C) (千円)	2,778	2,683	2,382	
主な事業費用の説明	キッズ ISO 入門編・緑のカーテン設置事業の消耗品費、親子学習会のバス借上げ。 ※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、親子環境学習会は令和元年度及び 2 年度は中止 ※新型コロナウイルスの影響により夏休みが短縮されたため、令和 2 年度はキッズ ISO は中止			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 30 年度(6,862 千円)、元年度(6,715 千円)、2 年度(6,575 千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30 年度	元年度	2 年度
活動指標	1 子供向け環境学習会開催回数	回	12	8	8
	2 キッズ ISO 参加児童(家庭)数	世帯	255	253	中止
	3 緑のカーテン設置箇所数	箇所	13	15	16
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	平成 30 年度に保育園・幼稚園・小学校 4 年生を対象を拡大し、環境意識を持ち生活行動に根付かせることを目的に、ごみとりサイクルに関する講義、温暖化対策やごみの減量化に関する講義(生ごみの重さ体験)、パッカー車による作業実演など、職員と市環境事業協同組合の協力で実施してきたが、令和元年度に環境事業協同組合の負担が大きいため、保育園・幼稚園の開催回数を隔年に調整し、年間 8 回としている。			
	2	キッズ ISO プログラムは、夏休み期間中に市内小学校 5 学年生が、「現状チェック」⇒「計画を立てる」⇒「実行する」⇒「結果の振り返り」といったステップを踏み、世帯のエコプロジェクトに取り組むものであるが、新型コロナウイルスの影響により夏休みが短縮されたため、中止となった。			
	3	保育園、幼稚園、児童センター、各小中学校を対象に温暖化対策について学ぶ機会とするため、朝顔やゴーヤなどを利用した「緑のカーテン」の作成に取り組むもので、各学校等からの希望により実施状況も変わるが、継続した実施ができています。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	環境学習会総参加者数	529	367	294
	2	キッズISO参加1世帯あたりの二酸化炭素(CO2)削減量(kg)	3.10	0.29	中止
	3	緑のカーテンによる壁面緑化面積(m ²)	266.4	276.8	254.4
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	開催回数を調整したことや、年度ごとに園児や児童のクラスごとの人数が変動するため総参加者数は減っているが、1回あたりの平均人数(H30 44人、R1 45人、R2 36人)はほぼ横ばいである。小学校においては、海洋ごみといった時勢にあった話題を取り入れることで内容がさらに充実している。			
	2	キッズISOの評価機関の判定結果は、各家庭の電力・ガス・水道の使用量やごみの排出量が基礎データとなるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により夏休みが短縮されたため中止となった。			
	3	緑のカーテンは市内の小中学校、中学校、児童センター、保育園・幼稚園・こども園で行っており、緑化面積はほぼ横ばいだが、参加施設数は増えている。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)			
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どのような形で具体化するのか)			
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明) 環境問題に関する社会的な課題は多様化しており、近年で言えば、脱炭素社会・プラスチックごみ・海洋ごみ・食品ロス・外来生物・SDGs等の言葉が盛んに話題となり、未来を生きる子供たちは身につけなければいけない知識が今まで以上に増えている。そこで、令和4年度以降の環境学習会について、このような話題を取り入れ、幼少期から課題に触れる機会を作るとともに、リサイクルやごみの減量化が学習会の軸となるが、その中で1つ社会的課題を中心に引き上げ、そこから視野を広げる工夫等にも取り組むこととする。(15~20分の持ち時間のため、そのうち3~5分を当該の所要時間とすると、1つが限度となる。)アンケートを実施し、学習会内容に反映させる。			
過去の改善経過	改善の経過	平成25年度: 保育園で環境教育を実施(市内保育園を3年間で一巡) 緑のカーテン設置事業を実施 平成26年度: 親子リサイクル探検隊を実施 平成28年度: 環境学習会に幼稚園2園、こども園1園追加 平成30年度: 環境学習会に小学校4年生を追加 令和2年度: 各園・学校に依頼する際に定型化したメニューを資料提示 海洋ごみを内容に追加		
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大 - <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
		外部評価	令和元年度	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止
改善案	環境学習会の内容を精査し、所要時間ごとに定型化したメニューから選択可能とし、より実践的で効果的な内容に改善していく。また、生ごみの水切り・一人当たりのごみ削減目標・食べ残しの削減といったごみ減量アクションプランの内容に加え、プラスチックごみの内容を盛り込み、社会情勢に即した学習を実施していく。			
課長所見	環境教育事業は、子ども世代から環境改善や環境保全等を意識づけるために大切な事業といえるが、今後は、子どもの意識にどのように影響を与えたのかを検証することも必要になると考える。			